



教育後援会会長  
三嶋 真澄

皆様のご理解と惜しみないご協力によりまして、教育後援会活動のそれぞれに、とても多くのご参加を頂きました。心から感謝申し上げます。特に弟燕祭におきましてのバザーは、私が役員をさせて頂いて以来初めて見る多くのご提供品でしたし、売り上げも最高額

でした。御礼申し上げます。売上金は教育活動に有意義に使って頂くべく、学校に検討をお願いしています。

今年度の役員会は東日本大震災への黙祷から始まりました。

3月11日は私達にとって生涯忘れられない日です。あの日、東日本を襲った地震と津波は一瞬にして私達の生活を変えました。夏休みに息子と初めて東北へ参りました時、津波が町中の物をごっそり持って行って手付かなくなった光景を目のあたりにして、大自然の前に人は何も出来ないのだと、ただ涙が溢れるばかりでした。

こちらは震源地から離れているにもかかわらず、たちまち生活に必要な品物が手に入らなくなり、それは“繋がっている”事を強く感じた瞬間でした。震災後の様子を見た外国のメディアは、暴動や略奪が起きない日本人の姿に、驚きと称賛を持って伝えていたと言います。実際私も品薄のスーパーに開店前から何度も並びましたが、お店の方が列を整えているわけでも無いの

に自主的に並び、品物が無くなっても奪い合ったりする人は居ませんでした。私達は当たり前と思っている行動も、海外の方が見ると不思議なのですね。

このような大きな災害が起きて初めて知った日本の良さは他にも沢山あって、それらは日本が世界に誇れる事です。復興は長い道のりになるでしょうが、私達日本人ならきっと出来ると信じます。この学校で学ぶ皆さんが将来の日本の担い手です。役員会で先生方から学校のお話を聞かせて頂く度に、この学校は素晴らしいと思えます。皆さんも、この学校で学べて良かったと実感する時が来るでしょう。

そんな学校生活を支えるのが教育後援会です。PTA会費だけでは賄いきれない部分がある為、皆様からのご支援で運営させて頂いています。これからも生徒全員に、より良い学校生活を送って頂けますよう、役員一同、努力して参ります。

昨年日本を訪れたブータンのワンチュク国王は「竜は私達1人1人の中に居ます。竜は自分の経験を食べて強くなります。」と仰いました。災害だけでなく世界経済も混乱し、今の若い人達は厳しい情勢と向き合わなければならないでしょう。失敗も経験です。間違っただけで大丈夫。ワンチュク国王のお言葉通り、どんな経験も、それを食べた竜は必ず強くなります。

今年は辰年。いっぱい経験して、自分の中の竜を強くしていきましょう。

今回もやっぱりこの言葉で終わりたいです。

**日本の未来は明るい!!**

# 15歳からの技術教育の意義とその在り方について

各種の技術系教育機関から見てきたもの

元副校長 中村 豊久



元副校長 中村 豊久

研究者・技術者・技能者をどのように育成するかということは、技術系教育に携わる者にとって大きな課題です。私は定年後、大学で教えたり、15歳からの技術系教育機関を参観してきましたが、現職時代には見えなかったものが多少見えるよう

になりましたのでそれらについて述べます。

まず、日本は貿易黒字ですが、その国際収支を下表に示します。

表 産業別 GDP と国際収支 (2004年度)

産業別 GDP 構成	割合	国際収支
サービス業(金融、小売)	60%	△4兆円
製造業	20%	29兆円
他(エネルギー、原材料、食品)	20%	△17兆円
差 引		8兆円

表でわかりますことは、製造業の20%が黒字を出し国民を養っていることです。

それでは、製造業を支える人材についてどのようにしているのか 2004年度の新社員数を学歴別に記します。大学と修士卒業生の合計は約36千人に対して工高は約27千人です。このように多くの工高卒業生が製造業を支えています。

日本では本格的な技術教育は15歳から始めておりますが、この若い年代に身につけるポイントはSMSであると言われております。すなわちセンス・マナー・スピリットです。

センスについて例を挙げます。元附属高校の平井校長先生に伺った話ですが、東工大の建築科に工高卒業生が入学して来るとそのクラスの製図は一段と綺麗になること。また、大手設計会社でも工高卒者の図面には、大卒者は適わないとのことでした。

次に特徴のある技術教育機関について述べます。

## 1 技能に重きをおく工高について

### ①企業内工高

技能オリンピックで優秀な成績を収める御三家の日立製作所、デンソー、トヨタ自動車の3社には企業内工高があります。入社すると社員として給与を受け取りながら文科省認定の工高の勉強に励みます。さらにデンソーのように、企業内短大を併設している会社は5社あり、如何に人材育成に力を入れているかご理解できるかと思えます。このような会社は試作品を製作するとき自社で直ちにできますが、育成していない会社は、他社に依頼している場合があります。また、日本の技能オリンピック選手の出身学科は、ほとんど工業科の卒業生です。

### ②公立高校

岡崎工高は、普通旋盤技能検定2級の合格者が毎年10名前後出ております。学校にある旋盤では、精度が出ないために愛知県は企業が協力し、会社の旋盤で実習できるように便宜を図っています。このような例は他県にもあります。また、先生も資格を取得するために、生徒と一緒に受験しています。ラグビー部の監督をしながら1級を取得した先生、有名な野球部の監督をしながら多数の2級合格者を指導している工高もあります。

## 2 工高内の理数工学科について

工高内に「理数工学科」を設置している学校があります。その学科の卒業生が大学で私の講義を受講しました。その折りに教育課程、実習、課題研究等の内容を伺いました。大学進学の実績を見ますと、本校と遜色がありません。しかし、課題研究は実にお粗末で、SMSは身につかないと感じました。その学科の雰囲気は、有名大学に入ることにのみ関心があるようで、これでは普通科と変わりなく、技術系人材の育成に役立つかは疑問です。

## 3 科学技術高校について

科学技術高校については、A県の場合、卒業者の内3割が文系に進学とのことで本校から見れば異常な割合です。

また、B県の科学技術高校の課題研究は、1学年240名の生徒を理科の11名の教員が担当し、テーマは教員の方で提案するとのことで、この時点ですべてに生徒は受動的になり能動的にはなりませんので、マナー・スピリットを育成することは困難であると思われます。幸いなことに本校では、1学年200名の生徒を教員は25名で担当しています。なお、今後、科学技術高校は増えるでしょう。

## 4 高専について

私は東京高専に参与として3年間に亘り、講義、実習、卒研等の授業を参観し、コメントしてきました。改善の余地はありますが、適性年齢・適性教育及びSMSを身につけるという視点からすれば最高のシステムであると改めて痛感しました。

研究・技術者を育成する場合に何歳頃から教育をしたのが良いかという点については定説はありませんが、Dyer, Henryは16歳頃と記しています。Dyerは、明治6年～15年まで工学寮(現東大工学部)の都検として赴任し、現在の日本の技術・工学教育の基礎を築きました。当時の西欧では英国が実技中心で仏国・独国が学理中心でした。Dyerは、そのどちらにも偏らない教育が大切と考え、その理論を日本で実践しました。Dyerが工学寮で実践した考え方は、旧高専、現高専に受け継がれ、工高にも脈々と流れております。

米国の高校教育は 1960～2000年まではほぼ10年おきに大きく揺れ動きました。それは、デュイに代表される児童中心主義とブルーナーに代表される教科中心主義です。

本校でも実施しているSSHは、1980年代に米国で行われた「マグネットスクール」の一環です。日本のSSHは、科学に焦点を絞っておりますが、米国のマグネットスクールは、科学、文学、芸術、演劇等それぞれの分野において人材を磁石のように集めて優秀な生徒を育成するという方針で、各学校で特色を出す制度です。これは、教科中心主義の発想です。また、「総合的な学習の時間」、「課題研究」は、児童中心主義の発想です。このように日本の教育は米国の教育に影響を受けてきました。先に述べたB県の科学技術高校のように、米国のマグネットスクールを形だけ真似て必要な教員の配置を伴わないのでは教育効果を期待するのは無理があります。

ご存知のように、1989年ソビエト連邦がピストルの弾一つ飛ぶことなく崩壊しました。この原因の一つに科学・技術力の差があったと言われております。今や新しい技術を持つ国が経済大国になっています。新しい技術は知的財産権により占有化され、国の存亡に関わってきました。しかし、優秀な研究者だけでは工業は成り立ちません。明治時代に東工大の基礎を築いた手島精一先生は工業の発展には、諸々の研究者・技術者が必要と考え5種類の機関を考えておられ、その内の一つが本校でした。

それでは、科学技術高校としてどのような人材を育成するかということになります。第1にSMSを身につけた人材の育成です。第2に期待される研究・技術者は、時代と共に激しく進歩する世界で果敢に挑戦する精神力を備えた人物かと思われま。

それに対処する方法の一つは、岡崎工高のように2級以上の技能検定資格を取得することが挙げられます。その訓練を通して心身ともに鍛えられるでしょう。しかし、本校の卒業生の多くは大学へ進学しますので、この方法は適切とは言えません。科学技術高校は、やはり課題研究を通して育成することかと思われま。課題研究は計画通り進むことは極めてまれで、困難な点が出てきます。それを克服して、初めて自信を持つことができます。その経験が将来に繋がり、新たな研究・技術に挑戦する態度を養うことができるでしょう。その他に、①SMSの育成、②共同作業の大切さ、③普通・専門教科の基礎学力の大切さを痛感する、④今後の生き方について考える機会を与える等の副次的な教育効果が期待できます。私は定年後も応用化学分野の課題研究発表会を楽しみにして参観して来ました。現役時代と違い、バイオのテーマが入り、発表はP.P.を駆使しており、目を見張るものがあります。幸い本校は優秀なスタッフ、施設・設備に恵まれております。それに胡座をかくことなくさらに研鑽して下さることを期待しております。今後も本校の良さを生かした優秀な卒業生を送り出していただければと思ひます。

また、科学技術高校のバイオニアとして全国の模範になるように輝いていて欲しいと念じています。

追記：この内容の一部は拙書「新しい観点と実践に基づく『工業科教育法の研究』」実教出版にあります。



# 第8回 シェフ大塚 お料理教室



主催：後援会  
日時：平成24年1月28日(土)  
場所：本校1号館3階  
家庭科実習室  
参加費：500円



1月28日(土) 本校1号館3階家庭科実習室にて

“第8回シェフ大塚お料理教室”が開催されました。

日本列島に寒波が到来する寒い日にもかかわらず、59名の方々に集まりいただき、大塚シェフのご指導のもと、和やかに調理と試食を楽しむことができました。

今年は「血液の流れをよくして記憶力を向上させる・脳に必要な栄養素と脳を活性化させる食事-」をテーマに下記の4品のメニューを考えて、指導していただきました。



1. 生揚げと豚肉のみそ炒め
2. 蒸し鶏の和風サラダ
3. パスタ入り野菜スープ
4. レンコンとキクラゲのきんぴら

詳しいレシピはホームページに掲載されています。  
<http://tokodaihuzoku-koenkai.com>

- ♡ニンニク・ショウガ・ネギで脳の血流を、しめじ・キクラゲ・椎茸などのキノコ類で免疫力をアップさせます。
- ♡生揚げと豚肉のみそ炒めは、中華風の調味に味噌が加わり、濃厚な味付けになって、若い受験生に受けそうです。
- ♡スープにはパスタが入っていて、ひと味違う食感と見た目の可愛らしさが加わっていました。
- ♡生野菜のサラダは、定番のレタスと冬に美味しい大根と人参を加え、蒸し鶏と共にアクセントの効いた梅ドレッシングでいただきました。
- ♡きんぴらは、レンコンとキクラゲのそれぞれの食感が絶妙でした。キクラゲをきんぴらにするのは目から鱗でした。



## シェフ大塚(大塚義夫氏) プロフィール

- 1976年 第1回青年司厨士ヨーロッパ派遣員として欧州各国で修行
- 1978年 フランス プロスペール モンタニエ受賞
- 1981年 レストラン東急支店料理長 就任
- 1993年 レストラン東急本店総料理長 就任
- 1997年 総料理長としてプレッセ1号店を立ち上げる
- 2002年 「見た美味しさ、食べた美味しさ、感動する美味しさ」をコンセプトに食のコーディネーターとして活躍、現在に至る
- 2004年 第1回お料理教室講師 エスコフイエ協会 日本支部会員



## 参加者のお声 -アンケートから-

- ※ バランスよくボリュームのあるメニューで、とても美味しくいただきました。
- ※ マンネリ化した食卓でしたが、この講座で勉強させて頂いたことにより、“家族の為に台所に立とう!”とモチベーションが上がりました。
- ※ 学年の枠を超えての保護者同士の交流と共に、先生方も会食できて、普段できない経験をいたしました。
- ※ 参加費が500円ですが、とても値打ちがありました。
- ※ シェフからのサプライズ差し入れのキッシュも美味しかったです。

# シェフ大塚からのアドバイス

## 合格は健康な体から <昼食で午後のエネルギーをしっかりと補給する>

給食の場合、1日の1/3の栄養素は確保されるので、残さず食べれば心配はいりません。しかし、お弁当の場合は栄養バランスを考えなければならぬので、頭を抱えるお母さんたちが多いことと思います。エネルギー消費の激しい成長期ですから、昼食でエネルギーを十分に補給しておかないと、午後の活動に影響を及ぼします。午後は1日のうちで最も活動が活発になり、精神的にも疲れがピークに達します。そのため、昼食で夕食までの長い時間のエネルギーを補給しなければなりません。

お弁当の場合は、主食、主菜、副菜をバランスよく組み合わせるようにして1日の必要量の1/3をとるようにします。まず、弁当箱の半分はご飯、半分はおかずにします。そのおかずの半分は野菜を入れるようにします。さらに、1/4量は主菜になる肉、魚などのタンパク源を、残りの1/4量に果物などを入れます。こうすると、バランスの良いお弁当が出来上がります。女子はダイエットと称して、お弁当箱に野菜やサラダや小さいおにぎりを入れていることがありますが、大事な成長期であることを忘れないように。

コンビニなどで買う場合は、野菜が不足しがちになるため栄養バランスを崩しやすくなります。サラダや煮物に加えたり、飲み物には牛乳を選んだりしましょう。経済的にも、お弁当の方が望ましいです。

夕食までの間にお腹がすいてもたない場合は、軽いおやつを食べるようにします。スナック菓子は手軽で子供たちが喜び食べ物ですが、エネルギーばかりで栄養的にはほとんど“0”に近いので、あまりお勧めできません。カステラ・サンドイッチ・おにぎり・煎餅・牛乳・ヨーグルト・野菜ジュースなど、できるだけ体に良いものを食べるよう心がけましょう。



## 受験生の為の夜食 <夜食作りのポイント>

### 1. 頭脳は、体温が高いときによく働きます

眠っている状態では、体温は低く、脳も休んでいます。朝が近づくにつれ、少しずつ体温は上がり始め、やがて目覚めます。栄養バランスのとれた朝食を摂って学校に行く頃にはさらに上がり、ある程度上がると安定し頭脳の働きも活発になります。昼食や夕食を摂るとまた少し上がり、夕食後時間が経つと体温は少しずつ下がっていきます。このとき、勉強しようとしてもはかどらず、なかなか集中できません。体温が低いと、頭脳の活動は低下してしまうのです。消化のよいものを適量お腹に入れると体温は上昇し、勉強に集中できる状態になります。

### 2. 夜食を摂るタイミング

お腹がすいて落ち着かなくなってきたときが、夜食を摂るグッドタイミングです。夜食を上手に摂って体温を上げ、頭脳の働きを活性化させ、集中して能率よく勉強できるようにします。ただし、量が多かったり、油っぽいものをとると、消化に時間がかかり、寝る直前まで胃に食べ物が残ってしまい、胃腸に負担がかかって、翌朝すっきりと目覚めることができません。寝るまでの時間を考慮に入れて夜食を摂ることが大切です。



### 3. 寝る3時間前くらいが適当

寝るまでの時間を逆算して、夜食を摂ることが大切です。体内で消化吸収される時間、また、エネルギーとして利用される時間を見越し、就寝する3時間前くらいに食べるのが適当です。



### 4. 温かくて消化のよいものを適度に

夜食を摂って寝るまでの時間は短いのです。小腹がすいたのを癒し、お腹に優しく胃もたれしない消化のよいものを選びましょう。麺類、ご飯など、デンプン質のもの、また、卵、納豆、豆腐などのタンパク質が消化のよい食品です。肉類はもも肉や鶏のササミなど、脂肪の少ない部位を選んで、また、あまりボリュームがあると、食べ終わった途端に眠くなってしまいます。量を加減することも大切です。たっぷり食べてしまったのは頭の回転も鈍くなり、太る原因にも。「もう少し食べたい」と思うぐらいが、勉強に差し障りのない量です。

### 5. 味つけは薄めに

あまり濃い味つけだとのが渴き、水分を摂りすぎることに。寝る前に水分を多く摂ると、夜トイレに行く回数が増えて寝つきも悪くなり、翌日すっきりと目覚めることができなくなってしまいます。味つけは薄めを心がけて。香辛料、香草の風味や辛味を上手に生かすと、たとえ塩分が控えめでも美味しく食べることができます。

### 6. 軽い体操も取り入れて

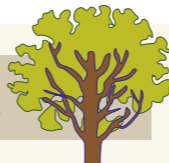
夜食を食べた後、しばらくしてから軽い体操やストレッチなど10分くらい取り入れるだけで、気持ちもすっきりとリフレッシュします。体温が上昇して眠気が解消されるだけでなく、胃腸の働きも活性化されて、食べものの消化吸収も早まります。また、血行がよくなって脳にたくさんの酸素が送られ、集中力をアップ。両手を上げて伸びを何回かするだけでも、十分に効果があります。

限られた時間で、こんなに素敵なメニューができあがりました。大塚シェフに前もって準備をしていただいたおかげです。シェフのアドバイスを守り、せめて親としてできることを子供たちにしたいと思いました。事前の準備に携われた先生や皆様ありがとうございました。寒い中、参加して下さった保護者の皆様もご協力ありがとうございました。来年のお料理教室も楽しみですね。



# 「第4回庭園見学会 報告」

副会長 村田 幸久



恒例となりました後援会主催の庭園見学会も回を重ねて4回目を迎え、11月19日に渋沢庭園～旧古河庭園(旧古河邸)というコースで実施しました。

当日は渋沢史料館に午後1時30分に集合し、見学会をスタートする予定でしたが、あいにくの雨天ということで庭園の見学は中止にし、すぐ隣に位置する北区飛鳥山博物館(入館無料)を急遽お借りして参加者の出欠席を確認したり、メインとなる旧古河庭園(旧古河邸)の入館料を徴収するなどこれからの行程に備えました。参加者は三嶋会長をはじめとして、山崎・高田・横山各副会長、小池・上林両顧問、役員の方々、保護者の方々、砂岡・今田先生など総勢41名となりました。

私は講師(ガイド役)として資料の作成などに当たりましたが、当日は雨天のためその説明をする場面もなく、専ら見聞を広めることに努めました。以下、その概略や見所などを報告いたします。

渋沢史料館は、明治から昭和にかけて、政治・経済・教育などの幅広い分野で活躍し、近代日本社会の基礎を築いた人物である渋沢栄一(1840～1931)の旧邸がもともと飛鳥山公園の一角にあり、その縁(ゆかり)の地に建てられたものです。

今回の見学会は2時少し前にスタートし、雨が降りしきる中、まず旧渋沢庭園内にある晩香廬(ばんこうろ)と青淵文庫(せいえんぶんこ)を見学しました。

晩香廬は栄一の喜寿(きじゅ)(77歳の誕生日)を祝って、清水組(現在の清水建設)の4代目当主から贈られた建物で、バンガローをもじって名付けられています。大正6年(1917)に竣工、設計は田辺淳吉です。平屋瓦葺きの屋根にレンガ造りの煙突が立ち、大変丈夫な栗材を用いた建物です。洋風茶室として大切な



お客様の接客用として使われていたということです。関東大震災(1923)以前の建造物として貴重なものですから青淵文庫と同様に、国指定重要文化財に指定されています。

青淵文庫は栄一の傘寿(さんじゅ)(80歳の誕生日)と子爵への昇格を祝って建てられた建物で、大正14年(1925)に竣工、設計は田辺淳吉です。栄一の雅号「青淵」に因んで名付けられています。この建物は竣工直前に震災によって大被害を受けたため、レンガ造りの壁を鉄筋コンクリートで補強し、さらにレンガ造りの壁にも交差する帯鉄を仕込むなど、躯体構造を頑丈にすつらえ、今で言う耐震構造を備えた建造物となっていますが、しかし、ステンドグラスやタイルなどを用いた華麗な洋館といえるようです。

もともと栄一の書斎となるはずだったのですが、主として、書庫として使われていたとのこと。「論語」などの漢籍が数多く収蔵されていました。

この二つの建造物を通じて、震災以前と以後という時間的隔たりの中で、外観からしてははっきりとした建物の相違が見取れることは顕著でしょう。

やがて、道すがら本郷通りに遺されている一里塚を右手に見ながら、メインの見学先である旧古河庭園(旧古河邸)に着きました。予め予約していただきましたので、2時30分前には入館できました。館内では専属の女性ガイドさんが付き、約1時間にわたって案内と説明をして下さいました。

旧古河邸についてですが、イギリスの建築家コンドル(1852



～1920)の晩年の傑作として知られる建物で、大正6年(1917)古河財閥3代当主古河虎之助の本邸として建てられました。イギリス貴族の邸宅にならった古典様式で、天然スレート葺きレンガ造りです。

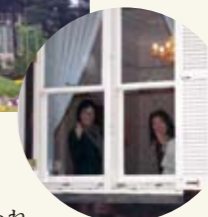
外壁は伊豆真鶴産の赤みを帯びた新小松石(安山岩)で覆われており、雨に濡れると落ち着いた色調を醸し出します。この日は雨のため、まさにその赤みを帯びた色合いが味わえました。しかし、建物全体を外側から眺めて見てみると、それは焦げ茶っぽい色のロジ(山荘)風の建物のような印象が強く残っています。

入館しますと、エントランスホールにおいて全員が勢揃いするまで待っている間、ソフトな明るさや温かさに包まれていることを覚えました。大正期から今日までずっと受け継がれている灯りに依っていたのです。この灯りは実は洋室の随所に見られました。間もなくして全員が揃ったところで、専任のガイドさんによる案内が始まりました。

1階は接客用のスペースとして洋室となっていて、撞球室・応接室・喫茶室・大小の食堂などが配置されています。とくに東・南側の庭に面した窓ガラスには大正期以来の板ガラスがそのまま使われています。それらをよく見ると確かに平面が少し歪んでいて凹凸(おうとつ)がありました。

そして、特別関心を惹いたのは、大食堂(現在は見学者などの喫茶室として利用できます)でした。その周囲の壁や天井には漆喰(しっくい)が塗られていますが、とくに天井部分には円を描くようにりんご、イチジク、ざくろなどの果物や野菜が象られていて、鍔(こて)を使って細工された職人さんの技には、まさに「お見事」といしかないものでした。それは天井を見上げながら何度も何度も塗っては仕上げた仕事ですから誰もが驚嘆せざるを得ないでしょう。

さらに、その食堂の内側の周囲を床から1.2メートルぐらい、



階材(ならざい)によってめぐらされていることに注目しました。これは音響効果を高めるための一種の装置だそうで、例えば晩餐会などに弦楽器による演奏を聞きながら食事を楽しんでいたのだ、というガイドさんの説明を聞きました。恥ずかしながら私には初めての見聞でした。

階段を昇って2階に上がりますと踊り場に出ましたが、各部屋がドアで閉じられています。しかし、ドアを開きさらに襖を開けると一転して仏間、居間(日本間)、客間、子ども部屋が現れました。これには流石(さすが)に驚きました。ドアと襖によって洋室と和室の接点にしていたのですが、襖の内側は純和室といってもよく、コンドルが「いかに日本建築に造詣が深かったか」を物語るものです。いわば、コンドルが晩年になって見出した「和洋が同居する新しい建築のかたち 和洋調和」がこの旧古河邸にあり、つまり、最大の特徴といってもいいでしょう。

最後に案内されたのはトイレと浴室でした。総タイル貼りで、トイレは水洗式、浴室は中央に五右衛門風呂のような浴槽があって、ハイカラというかモダンな感じがしました。これで館内のすべての見学を終了しました。興味のない楽しい至福の一時でした。

このあと、全員が退館し玄関前に勢揃いしたところで記念撮影をして散会しました。戸外はますます雨が激しくなる一方で、バラ園などの見学を自由にし、参加者の方々に色々な過ごし方をして楽しんでいただくことにしました。

私は数人でバラ園を見て回りながら、その奥にある日本庭園まで足を伸ばすつもりでしたが、途中、歩道に水が溢れんばかりにたまっていましたので断念してしまいました。

その日本庭園は京都の庭師、名匠といわれました植治(うえじ、小川治兵衛)が手がけたといわれていますので、是が非でも見学したかったのですが、残念でなりません。

とにかく、今回も建物の見学が中心となりましたが、雨天の中で数多くの方々のご参加を得、またご協力をいただいて幸いにも無事に終了できましたことに大変感謝しています。誠にありがとうございました。





# 震災後の高校の対応

副校長 門馬 進

今思い起こしてみると、3月11日の震災で約200名の生徒と一夜を明かし、翌日に生徒全員を帰宅させ、その後、市川市の自宅アパートに帰宅してみると、水道が止まっており、道路も一部液状化している自身が被災者であることを実感した。余震も引き続き多発し、テレビで伝わる情報も深刻なため、安全が確認できるまで3月14日～3月17日は休校、3月18日は時間を短縮し、分野振り分けや教科書販売を行い、午前中で帰宅させた。終業式も24日(木)から25日(金)へ変更した。まだ余震の心配のある春休み中の部活は、保護者の承諾を得ること、必ず教諭がいることが条件で許可した。3月15日～19日に予定していたフィリピン・ラサール附属高校への生徒派遣は延期とした。

世の中は何でも自粛ムードに支配されはじめ、東京工業大学は入学式を取りやめ、附属高校も大岡山の講堂を使うことは出来ないと通告してきた。しかしながら、先生方の強い希望で入学式は、会場を何十年ぶりに附属高校に変

更し実施した。大学から学長先生をはじめ多くの来賓の方々も参加された。1学期の授業については「平常通り」行うことを始業式、HPで宣言し開始した。

続いてきたのが、原発関係の節電対応で、以下の通り

- ① 室内の電球の間引き
  - ② 廊下の消灯(非常灯を除く)
  - ③ トイレのウォーマーの停止
  - ④ エアコン停止(教室等のガス式は除く)
  - ⑤ 外灯(体育館壁)の間引き
  - ⑥ 自動販売機を節電モードへ
  - ⑦ グラウンド脇の大学の電光看板の消灯等々。
- 原発放射能関係対応で、6月28日(火)午後3時30分～午後5時、3号館大講義室で、原子炉工学研究所副所長の矢野豊彦教授の司会進行で、大学の東日本大震災対策本部放射線対策室主催の講演会が行われた。放射線に対する正しい知識、対応方法を学んだ。また校内の放射線量を計測していただいたが全く問題のないレベルであった。その他被災地・被災大学への支援など様々なことが行われました。

# 弟燕バザー

教育後援会の行事として、文化祭(弟燕祭)に参加しバザーを行いました。これまでもバザーの売り上げで別表にあるような物品を学校に寄付させていただいています。今年は特に出品数が多く、売り上げが2日間で224,698円となりました。バザーに品物を提供して下さった皆様、当日購入して下さいました皆様、誠にありがとうございました。前年度と合わせて、生徒の安全や教育活動に役立つものを購入させていただきたいと思っております。また、来年度もご協力よろしくをお願いいたします。(記 砂岡)



### 教育後援会寄贈品一覧

教育後援会、会費、賛助会費等より

H20	グランドピアノ 音楽室
	上記会費+バザーの収益金
H18	除細動機(AED)2台 4号館、体育館前
H19	スクリーン設置 本館2階212教室
H20	光学式マークシートリーダ(OMR)
H23	車椅子 2台

### 教育後援会だより 第13号 平成24年3月10日発行

東工大附属高校教育後援会 発行人 三嶋 真澄  
 オフィシャル・ホームページ：<http://tokodaihuzoku-koenkai.com>  
 印刷所 株)あおむし Tel.050-5803-3564